

読書週間特別企画「私のおすすめの1冊」

毎年恒例、皆様からおすすめの1冊を教えていただく企画は多くの方にご参加いただいたおかげで、3本の「読書の木」ができ、素敵な掲示となりました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

ここでは、まず一部をご紹介します。

今後のおたよりや図書案内で少しずつご紹介できればと考えております。

『その日の前に』重松清著
文藝春秋
【シ】【シ-文庫】
感想：命の大切さや家族のあたたかさが分かる話でした！選んだ理由：命の大切さやその人生にどう向き合っていくかなどが分かる話だからです。 11歳

『ながい坂 上/下』
山本周五郎著 新潮社
【ヤ-文庫】
山本周五郎の最後の長編時代小説。
「人生」という長い長い坂を人間らしさを求めて一步一步愚直に登りつめて行く一人の男の半生に感動し、感銘を受けました。特に若い人に読んでいただきたい永遠の名作です。 79歳

「ハリネズミの願い」
トーン・テレヘン著 新潮社 【ト】
表紙のハリネズミのかわいさにひかれて手に取りました。森に住むハリネズミがあーでもないこーでもないと思悩む様子がとても素敵に書かれています。文章、小説の力をとても強く感じた1冊。おすすめしたいです。40代

「しにがみレストラン」
怪談レストラン編集委員会編
童心社 児童書【98】
わたしがこのほんをすすめたりゆうは、おぼけだけどこわくない。なぜかわいからです。 7歳

